

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	稲荷山医療福祉センターほっぷ		
○保護者評価実施期間	R6年12月12日		～ R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R6年12月12日		～ R7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○訪問先施設評価実施期間	R6年12月12日		～ R7年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・療育の専門家であるリハビリスタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が訪問し、訪問先と支援を検討できる。	・訪問先で困っていること（ニーズ）を中心に、有効な療育支援を提案するようにしている。 ・装具の調整方法や使用方法を関係するスタッフに伝えている。 ・地域学校や保育園で生活する肢体不自由児の支援に不慣れな現場が多いためPTが積極的に訪問している。	・令和6年度は外部講師を招いて、訪問先への助言方法や観察のポイントを勉強した。令和7年度も外部講師を招いての研修会を企画し、スタッフの研鑽に努める。 ・学齢児のニーズも増えているので、教育分野の知識を付けるため教育委員会で開催する研修へ参加し、スタッフ皆で共有できるようにする。
2	・外来受診している子どもが多く、主治医と訪問先での子どもの様子を共有し必要な助言や治療につなげている。	・電子カルテに訪問時の様子を記載する、主治医に様子を報告することにより、主治医からのアドバイスも関係者に伝わるよう支援している。また、服薬効果や必要性も主治医と話し合っている。	・外来受診している子どもについては、引き続き主治医と丁寧な情報交換を行う。併せて、主治医からのアドバイスを踏まえた支援を心がけていく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問先との調整、リハビリスタッフと同行、保護者への報告などの調整をするスタッフが不足しているため、今後増えると思われる訪問ニーズを満たせるか不安が残る。	・事業所を開所して間もないため、訪問までの段取りや保護者や関係者とのやり取りを手探りでやっている。日ごろからそういった業務をしている相談室が中心で段取りを行っているが、他業務との兼ね合いもあり負担が大きい。	・訪問ニーズが増えてくることが予測されるので、スタッフ皆で課題を共有し、有効な支援ができかつ効率的、負担の少ないやり方を検討していく。
2	・開所して1年たったばかりで、訪問に出向いたことがないリハビリスタッフが多い。また、スタッフの中には保育園の状況や学校の状況を把握していない者もあり、納得の得られる助言ができるか課題が残る。	・訪問員のほとんどを占めるリハビリスタッフの中には、学校や保育現場に出向いたことがないスタッフもいるのでイメージが持ちづらい。 ・開所して日が浅い。	・初訪問の時は、訪問先の状況や地域の状況を医療相談室のスタッフから聞く時間を設け、イメージをもって訪問できるようにしていく。 ・今回の保護者や関係者からの評価をもとに、有効だった支援について検証していく。
3	・他業務と兼務しているので、日程がとりづらかったり、他業務優先になることがある。 (例) ・訪問員⇒外来、入所リハビリとの兼務。相談室業務 ・児童発達管理責任者⇒児童発達センターとの兼務 ・相談支援専門員⇒相談室業務	・センター全体の職員不足が影響している。 ・開所して間もないため、事業収入のみでは採算に合わず、他業務と兼務せざるを得ない。	・地域のこども部会等で保育所等訪問支援のニーズを確認し、ニーズに見合った支援ができるようセンター全体で検討していく。